令和７年度　練馬若年認知症サポートセンター　事業報告

はじめに

若年性認知症を中心とした専門性の高いデイサービスを展開し、利用者に対しきめ細かい介護サービスを提供していくことで、在宅生活が維持できるよう支援した。
若年性認知症への理解と普及・啓発活動を行い、利用者及び家族が地域社会の中で安心して生活が出来るような環境の確立に努めた。
利用者へは、本人の社会参加意欲に応えると共に、ボランティア活動を通じて地域との交流、他者とのコミュニケーションを図り、若年認知症の進行を緩やかにし、居場所づくりをしながら「いきいきと住み慣れた地域での生活」が送れるよう支援し、同じ目線での話しかけを心掛けたケアを実践した。

重点事項

① 若年性認知症を中心としたデイサービスの向上に努め、QUALITY の高い事業展開を行った。
- 同じ目線で話しかけ、優しく触れるユマニチュードを取り入れたケアを行った。
- 二つの動作を同時に行うデュアルタスクを取り入れた脳内トレーニングを行った。
- 練馬区と連携した環境ボランティアを行った。
- 練馬区と連携した安全・安心見回りボランティアを行った。

② 質の高いサービスを提供できるよう人材育成に努めた。
③ 利用者本人および家族の抱える問題を把握し、地域と連携をとり、より良いサービスが提供できるように努めた。
④ 若年性認知症への理解と普及・啓発に関係機関に働きかけ、取り組みを行った。

2　利用対象者

若年性認知症等４０歳以上６５歳未満で介護認定が要支援以上の方。

3　事業内容

1　地域密着型通所介護・介護予防通所介護（一般デイ、若年性認知デイ）

（1）利用定員　　１日　　７名
（2）利用日　　月～土曜日
（3）利用時間　　午前８：３０　～　午後４：４５（送迎時間含まず）
（4）事業実績

令和７年度も、利用者一人一人に合ったサービスを実施、関係機関及び家族との連携を強化することにより、サービスの質の向上を図ることを目標として1年間事業を行ってきた。
年間の稼働率は平均約 81％（実績⑥）であった。前年度と比較して減少した。

病状の急速な悪化に伴う入院や死去、歩行困難状態や頻繁な徘徊により、在宅介護の限界に伴う入居施設への移行での退所が相次いだ。新規利用ならびに継続利用者の利用日の増回もあったが、稼働率は減少した。

（5）サービス内容

① 地域密着型通所介護計画に基づくサービス提供

ケアプランに基づいた適正な地域密着型通所介護計画を作成し、利用者及び家族の意向と状況把握並びにユマニチュードケアに努め、全ての利用者がより良い在宅生活を継続できるよう支援した。

② 健康管理

利用者の健康状態を観察・把握し、健康管理及び健康指導に努め、異常の早期発見早期対応に努めた。緊急時は、家族及び主治医との連携による迅速かつ最善の対応に努めた。

また、感染症予防のための適切な対応及び対策の徹底を図った。

ア． バイタル測定・状態観察
イ． 健康相談・体重測定
ウ． 手洗い・アルコール消毒
エ． マスク着用・パーテーション設置
オ． ３密回避への注意喚起・換気

③ 食事

管理栄養士と連携をとりバランスの取れた昼食の提供をした。

また、個々の利用者の状態及び嗜好を把握し、食事内容・形態に配慮した“食”に喜びを感じられるような食事を提供した。

ア．食事介助（食事状況の見守り）を行った。
イ．嚥下状態及び食事摂取量の観察を行った。
ウ．嚥下体操による嚥下訓練を行った。
エ．管理栄養士による栄養指導（栄養マネジメント）を行った。

④ 入浴

通所介護計画に沿った入浴サービスを提供するとともに環境整備にも努め、利用者に寄り添う個別対応を提供した。

⑤ 送迎

利用者個人の心身状態及び地理的状況等を考慮した送迎車両・送迎ルートを設定し、無理のない送迎サービスを提供した。また、安全第一を念頭に置いた走行及び車両の定期的な点検・整備を行い、利用者の安全確保に細心の注意を払うとともに車両内外の清掃を徹底し、利用者が快適に乗車できるよう努めた。

ア．乗車・下車時の介助を行った。
イ．乗車中の状態観察を行った。
ウ．迎え時の状態確認・送り時の状態報告を行った。
エ．シートベルト着用および車椅子固定の確認を行った。

⑥ 介護サービス利用時の相談

利用者及び家族の心配事や悩みへのアドバイス等、各種相談を随時受け付け、連絡帳を活用し個別対応を心掛け、必要に応じて担当ケアマネージャー・地域包括センター等と連絡調整を行い、利用者の在宅生活を支えるとともに家族の介護負担の軽減を図った。

ア．生活相談等、各種相談は随時受け付け、対応した。

イ．在宅での介護方法についての相談・助言を行った。

ウ．家族会は、新型コロナウイルス等感染症まん延防止のため、個別対応とした。

エ．その他、指定通所介護に係る必要な相談援助を行った。

⑦ 活動（レクレーション等）プログラム

年間活動計画を立て、月ごとに季節の合わせたレクリエーション等、利用者のニーズに合わせた企画・提供を行った。

- デュアルタスクを取り入れた脳内トレーニングを行った。
- 練馬区と連携した環境ボランティア活動（風景①）を行った。
- 練馬区と連携した安全・安心見回りボランティア活動を行った。
- 就労体験型支援として、当施設及び区内当法人特別養護老人ホームにて送迎車両の洗車や剪定等の補助的業務活動(風景②)を行った。
- 社会参加型支援として、施設庭にて園芸や日常生活の業務活動、地域のボッチャ交流会への参加など(風景③④⑤⑥)を行った。
- 下肢筋力強化を目指し、公園などにて四季を感じながら健康促進を図る散策活動（風景⑦⑧）を行った。

実施月	内容	日程	実施場所
４月	お花見散策会（桜）	上旬	近隣公園
５月	こいのぼり散策	上旬	近隣公園
６月	お花見散策会（バラ）	上旬	四季の森ローズガーデン
７月	七夕祭り	上旬	サポートセンター内
８月	納涼会	中旬	サポートセンター内
９月	防災訓練	１日	避難経路
１０月	ミニ運動会	中旬	サポートセンター内
１１月	ボッチャ交流会	20 日	関区民センター
１２月	クリスマスおやつ会	上旬	サポートセンター内
	年末大掃除	30 日	サポートセンター内
１月	初詣神社めぐり	上旬	田無神社等
２月	節分会	上旬	サポートセンター内
	お花見散策会（梅）	中旬	近隣公園
３月	防災訓練	２日	避難経路

⑧ 要介護認定の申請の手続きをアドバイス

初めての要介護認定申請の手順について相談並びにアドバイスを行った。ご本人・ご家族での「申請」が難しい場合、ご本人やご家族に申請の手続きの支援を行った。

⑨ アフターフォロー体制

ケアプランに沿ってデイサービスを利用されるようになった後も、ADL（日常生活動作）の維持・向上を目指し、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所と連携のもと、ケアプラン作成の継続ができるようモニタリングを行った。

⑩ センター機能構築

若年認知症に携わる団体の中心となり、病院の医師と連携を図り、利用者を支援し、外部家族会・支援団体と情報共有を図り、BPSD（認知症の周辺症状）初期の段階から家族と繋がるセンター機能の構築を図った。

⑪ 自治体や各関係機関との連携

東京都・練馬区等、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会、福祉事務所、練馬区（まち美化推進係、安全安心係ほか）、地域自治会等との連携に努めた。

（6）運営管理

① 職員運営会議

月１回運営上の諸問題を検討及び報告、事業・研修の計画を立てた。

② サービス調整会議

利用者のサービス等に係る諸問題を月２回検討した。

③ 運営推進会議

開催し、地域や関係機関との密な連携を保ち、サービスの質を確保することに努めた。

④ 事業プランをプロジェクトチームによる実現化

様々な事業プランはプロジェクトチーム化し、より精度の高い事業展開を行った。また、若年性認知症への理解と普及・啓発のサポート（支援）並びに中心的な存在（センター機能）としての役割をもって発信した。

- ◆ オール７プロジェクト（稼働率100%を目標とするチーム）
  ケアマネージャー、家族会、地域包括支援センター、若年認知症総合支援センター等へ新規利用者の紹介を開拓し、利用へ繋げた。

- ◆ いまカラこれカラプロジェクト（若年認知症の相談・普及・啓発）
  利用者の家族やケアマネージャー等と情報・意見交換等行い、利用者と家族の現状と将来を検討した。また意見等を集約し、地域の多職種ネットワーク会や近隣市区の包括支援センターなどへ当施設の日頃の取り組みや現状の諸問題について情報を共有し、課題解決に向けての意見交換や学び合いの機会を作り、若年性認知症についての情報発信・共有を

行い、地域と連携をとり、より良いサービスに繋がるよう努め、若年性認知症への理解と普及・啓発を関係機関に働きかける取り組みを行った。

◆ 介護ロボットプロジェクト（助成申請・モニター施設申請）
介護ロボットを導入し、利用者の事故防止のための見守り並びにコミュニケーションツールとして役立てた。
・パルロ（人型見守りコミュニケーションロボット）
・アイボ（犬型愛玩動物コミュニケーションロボット）
・パロ（アザラシ型愛玩動物ロボット）

◆ 地域密着配食プロジェクト（独居高齢者、見守り支援）
就労体験型支援として、地域の配食ボランティアグループの配達ボランティアとして、利用者と共に独居高齢者宅への配達業務を行い、地域に貢献し、利用者の社会参加への意欲の向上に繋がった。

⑤ 防災管理
・利用者の安全確保のため、職員に対し消防計画の周知徹底に努めた。
・総合防災訓練を夏季冬季に（年2回）実施した。

⑥ 点検、衛生管理
・設備保守点検を行った。〔毎日〕
・清掃（居室清掃、トイレ清掃、浴室清掃）を行った。〔毎日〕
・保健衛生（消毒）を行った。〔毎日〕

⑦ 情要望体制
・担当者並びに常設窓口設置し、処理体制の整備を行い、真摯に受け止めサービス体制を整えた。

⑧ 研修
・OJT：新任・現任の研修をオンライン並び机上にて行った。
・OFF－JT：都・区・その他の機関の研修は、新型コロナウイルス等感染症まん延防止のため、配布資料よる机上にて行った。

⑨ 職員定期健康診断
・職員の健康を確保、維持するため定期健康診断を年1回実施した。
・インフルエンザウイルス対応のため予防接種を実施した。

⑩ ボランティア等の受入れ
本年度は、活動プログラムの補助として、受け入れた。

⑪ 実習生の受入れ
本年度は、感染症まん延防止のため、受け入れを中止とした。

⑫ 社会福祉施設介護等体験生の受入れ
本年度は、感染症まん延防止のため、受け入れを中止とした。

3　実績報告

（1）利用者状況

① 平均年齢（令和8年3月31日現在）

性別	在籍者数	平均年齢	年齢分布				
			40歳未満	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
男性	10	59.7	0	0	5	2	3
女性	4	66.8	0	0	0	1	3
全体	14	62.3	0	0	5	3	6

② 介護度（令和8年3月31日現在）

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要支援1	要支援2
男性	4	4	1	1	0	0	0
女性	0	1	0	1	2	0	0
全体	4	5	1	2	2	0	0

③ 入所状況（令和7年4月～令和8年3月末）要介護1から5の利用者

性別	入所人数	平均介護度	平均年齢	通所前環境			
				自宅	病院	就労	事業所他
男性	2	2	52.5	0	0	2	0
女性	0	0	－	0	0	0	0
全体	2	2	52.5	0	0	2	0

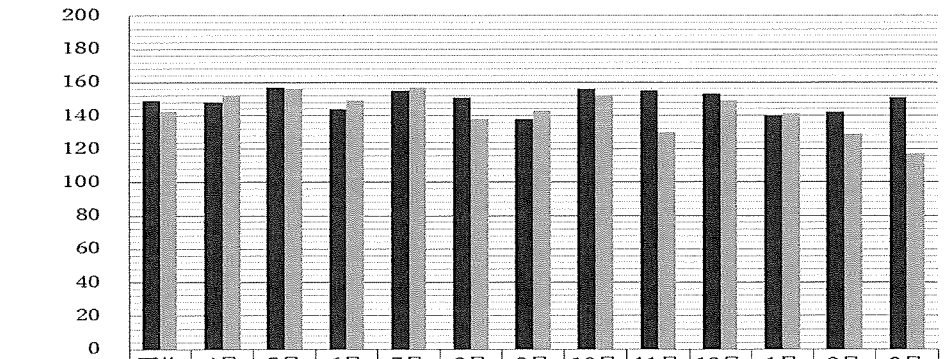
④ 退所状況（令和7年4月～令和8年3月末）要介護1から5の利用者

性別	退所人数	平均介護度	平均年齢	通所日数	退所理由			
					入院	他施設入所	他事業所	その他
男性	4	3	58.0	13	2	1	1	0
女性	1	4	63.0	4	0	1	0	0
全体	5	3.5	59.0	11.2	2	2	1	0

⑤ 障害手帳の取得状況（令和7年3月31日現在）

性別	取得者数	平均年齢	年齢分布				
			40歳未満	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
男性	8	61.0	0	0	3	2	3
女性	1	66.0	0	0	0	0	1
全体	9	62.3	0	0	3	2	4

⑥ 利用実績状況



	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和6年	149	148	157	144	155	151	138	156	155	153	140	142	151
令和7年	143	152	156	149	157	138	143	152	130	149	141	129	117

⑦ 主な活動風景

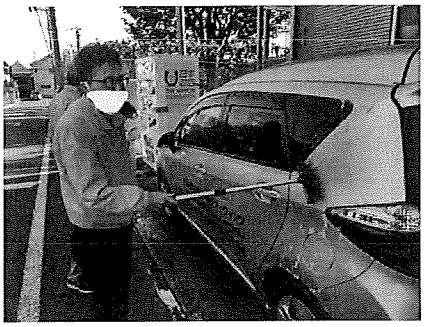
●区と連携した環境ボランティア
「たばこのポイ捨て禁止」美化活動

①



●就労体験型支援：
当施設送迎車両洗車作業

②



●社会参加型支援活動（日常生活動作訓練ほか）

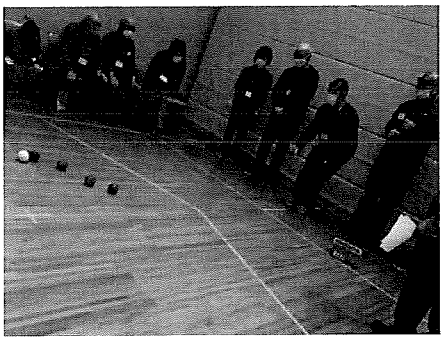
施設庭のミニトマト収穫作業

③



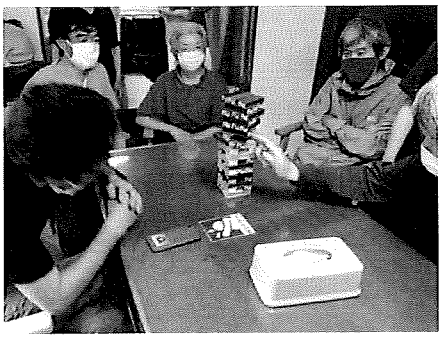
地域交流会参加：ボッチャ

④



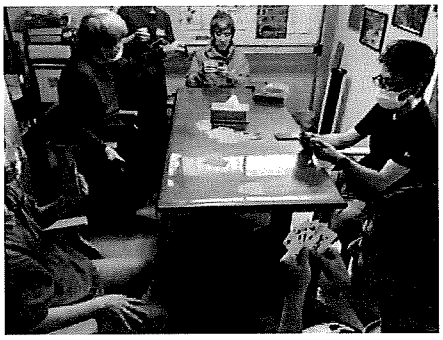
脳トレゲーム：ジェンガ

⑤



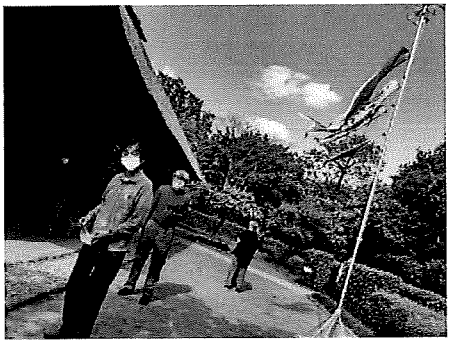
脳トレゲーム：トランプ

⑥



●レクレーション行事　季節体験（下肢強化・健康促進の外出散策活動）

⑦



⑧

